

数学

<全体分析>

試験時間	60分	解答問題数	5題
------	-----	-------	----

<p>解答形式 客観式</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>出題の特徴 客観式とは言え、記述式の大問と同等の問題がいくつか出題されており、制限時間内で解き終えるのは非常に難しい。</p> <p>その他トピックス 問2が小問集合になった。</p>

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
問1	場合の数と確率	数学A	$a_1, a_2, b_1, b_2, c_1, c_2, d_1, d_2$ を2個ずつ4組に分けるときの、 $\{a_1, a_2\}$ のような同種の文字の組ができない確率を求める。余事象で考えるのだが、経験がないと難しい。	やや難
問2(1)	指数関数と対数関数	数学II	連立不等式が表す $x-y$ 平面上の領域の面積を6分の1公式を用いて計算する。	標準
(2)	図形と計量	数学I	3辺の長さが与えられた三角形の面積を計算する。	易
(3)	整数の性質	数学A	n 進法で2021と表される整数が素数になる最小の n 、合成数になる最小の n をそれぞれ求める。 n が3以上に注意する。	易
問3	図形と方程式	数学II	絶対値記号を含む1次不等式で表された領域内の格子点の個数を求める。	やや難
問4	図形と方程式II	数学II	領域と最大・最小。典型問題のため解き易かったであろう。	標準
問5	図形の性質 数列	数学A 数学B	なす角が 60° の2直線に接し、かつ1つ前の円の中心を通るようにして次々に作られる円の列の半径について漸化式を立てる。 さらに、1個目の円から10個目の円までの面積の和の整数部分を求める。 客観式なので概算で値は求まるのだが、きちんと大きさを評価して求めようとするのが難しい。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>例年、数学I、A、II、Bの主要分野から、標準レベルの問題を中心に出题されるので、高校で使っている問題集などで偏りなく、典型的な手法を身につけることが大切。</p> <p>また、試験時間が60分と短いので、やや難レベルの問題に挑戦するより、標準レベルまでの問題を正確に素早く解決する練習を積んでおかなければならない。</p>
